

『ありがとうを言える日』

もう本当に年末だ。

それで今年を振り返ってみて、思う。

私は今ほど心から、心の奥底から「ありがとう」の気持ちを実感したことはない。涙が出るほどいい年だった。

この巨大な感情をうまく表現するのは難しいんだけど、とにかくこれが何に対しての感謝なのかって、それはたぶんすべてに対して。

これを読んでいるあなたに、スタッフに、共演者に、ミュージシャンに、ともだちに、両親に、これまで関わったすべての人に。あと、自分自身に。

きれいごとではなく、心の底から叫びたいくらい感謝の気持ちにあふれている。それがどうしようもなく嬉しい。

神様とか仏様とか、もっとよくわからない大きな力とか、それらについては別に否定しないまでも、今はもっと身近なものへの愛と信頼で満ちている。

ああ、自分がこれまで選んできた道のすべてが正しかったなんてとても言えないけれど、それすらも許せるほどに今がいい。間違えてしまったことや、傷つけたりくじけたりした時間があるって、初めて知った大切なことがたくさんある。

もうず一つと前から探し続けているもの。あるいは、訴え続けていること。あっちにぶつかり、こっちにぶつかりしながら、ときに嘆き、ときに感動し、いろいろな人の力を借りまくって進んできた道のり。ひとりぼっち、誰とも分かち合えない孤独を抱えて、それでも人と関わろうと生きてきた日々。どこまで行くんた、どうしたら辿り着くんたど、途方に暮れたこと。

今年は、そんな私の時間がぜんぶ無駄じゃなかったと実感できるような出来事がたくさんあった。ことばを紡ぐ楽しさに没頭した音楽制作とか、自分を解放することが少し容易くなったこととか、まるで自分の半身のような人と静かに育んだ友情とか。

終わらない旅の途中ではあるけれど、この先もいろんな坂があるだろうけど、今この瞬間に目の前に広がる景色は素晴らしい。どんな苦難も、必ず未来の糧になると証明された年だった。だからこの先の坂も嵐もみんな、ぜったいに乗り越えてその先の景色を見てやるんだからと、腹もくくった。

さあ、来年、こんなに幸せにしてくれたお礼に、いっぱい恩返ししなきゃ。

私にできることはきっとまだまだたくさんある。仕事をする坂本真綾としても、ただの坂本真綾としても。

混じりけなしの感謝の気持ちというのは、こんなにも強いエネルギーになるものなのか。すごいパワー。嬉しいやら楽しいやら。

というわけで、みなさま今年も、ありがとう。

よいお年を。

* maaya *